

氏名	竹 内 誠
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2653 号
学位授与の日付	平成 5 年 12 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	急性白血病寛解導入療法における骨髓内白血病細胞減少動態に関する研究
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 岡田 茂

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【目的】急性白血病寛解導入療法効果を把握し至適治療体系を確立するため白血病細胞減少動態を解析した。【対象及び方法】急性非リンパ性白血病60例を対象とし、初回寛解導入療法中の骨髓内白血病細胞減少曲線に  $\log Z = K_1 t^4 + K_2 t^3 + K_3 t^2 + K_4$  ( $Z$ : 白血病細胞数,  $t$ : 日数,  $K$ : 定数) を適用し、第一相(減少開始から最大減少まで)、第二相(最大減少から減少停止まで)の期間及び平均減少加速度、最大減少速度、減少停止日、残存白血病細胞数につき検討した。また、寛解導入療法中の骨髓内赤芽球減少動態を同様に検討した。【結果】(1)完全寛解例では非寛解例に比し、有意に第一、二相の期間が長く、第二相平均減少加速度が小さく、残存白血病細胞が少なかった。(2)病型、治療法、年齢による差は認めなかった。(3)赤芽球減少動態は、治療効果、年齢による差を認めなかった。(4)第二相平均減少加速度が高値の症例で寛解持続期間、生存期間が短かった。【結語】白血病細胞減少動態の解析は治療効果及び予後との関連において、特に治療抵抗性細胞の動態の把握に有用と考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は急性白血病寛解導入療法効果を把握し至適治療体系を確立するため白血病細胞減少動態を解析したものである。その結果白血病細胞減少動態の解析は治療効果及び予後との関連において、特に治療抵抗性細胞の動態の把握に有用であることを明らかにした。これは価値ある業績であり、よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。